

フロムサウス
from

SOUTH

2015年
vol. 30 5月31日発行
長崎県立長崎南高校関東同窓会
会報



▲イラスト 小玉修作（7年生）

長崎南高校関東同窓会総会

第25回 2015・7・11

銀座も銅座も、
えっとかわらんばい！

三味の音が銀座に響くよ♪

今年は、3月下旬に急に暖くなり桜が一気に咲いたにもかかわらず、急に雪が降り、咲いている花に降り積もった一種独特の風景を楽しむことができたのではないのでしょうか。まるで4月に四季があるようでしたが、ようやく本来のさわやかな季節がやってきました。

皆様、如何お過ごしでしょうか。

今年も7月に、我が母校の長崎南高校関東同窓会総会が開催されます。今年は、銀座の中心地である銀座5丁目銀座コアビル7Fにある「クルーズクルーズ The Ginza」を会場に、盛大に盛り上がりとうと企画しております。企画の目玉は、「長崎から本踊りがやってくる」です。長崎から芸妓の玉羽さん（長崎北出身）と三味線の三勇姐さん（長崎南12回生）に来ていただけることになりました。

昨年に続き、ベースアップも実施され、アベノミクスの成果がじわじわと出ております。円安効果で海外からの観光客も増えており、日本各地の観光地は外国人でごった返している状況は、皆様もよくご存じだと思います。皆様も銀座に集結し、好調な日本の景気を実感しましょう。二次会の会場も同じく銀座に押さえております。

また、サプライズゲストもあるかもしれません。

本来ならば、今回の同窓会総会は22回生が幹事回生とはなりますが、諸般の事情により12回生が務めさせていただきます。10年前に住友会館で開催させていただいた際は、大勢の方々に来場いただきました。もう10年たったのだなといった気分ですが、気を引き締めて務めさせていただきますので、なにとぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

幹事一同、11日に皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

第25回長崎南高校関東同窓会総会実行委員一同

日時 2015年7月11日（土）15時～
会場 クルーズクルーズ THE GINZA
東京都中央区銀座5丁目8-20 銀座コアビル7F
TEL.03-5568-8800

会員 10,000円（年会費2,000円含む）
学生 5,000円（年会費2,000円含む）
家族 4,000円

交通のご案内

銀座駅 A3 出口より徒歩1分



ふるさとは

遠くにありて…

あのころきみは若かった♪
汽車に乗って、飛行機に乗って、故郷をあとにして新しい生活をはじめた東京。あんなこと、こんなこと、あったよね♪

◇Back to the Eighteen

長崎南高関東同窓会長 小岩 寿樹

毎回このテーマで書いてきます。今回は長崎弁編。

今年の三月、矢の平から戸町まで、新しい道(?)ば車で走りました。

田上で右折して少し行きよったら、突然南高の裏門の下に…(今はここが正門だそうです)。そう言えば「高校時代にマラソン大会の練習で、体育の時間に走った道やったなあ」と思い出しました。

ところで、(昔の)正門は? あったよ、あった。少し田上側に戻って、左側の小さか路地ば入って行ったら…。

「この門はこげんこまかったかな?」それに、そこからはつきり見えよった風頭が、前の家に隠れていつちよん見えんことなるとる。

「遠く(時間的に)に来てしようたかな?」っていう、淋しか思いがしたとよ。もう帰られんとやろうか?

いいや、目ばつぶればいつでん、あん時ん景色ば見らるるよ。そして、同窓会に出れば、遠くからも帰って来らるるし、十八

歳の時の自分に会わるといたい。

皆さんも、重松清さんの「流星ワゴン」に乗って、同窓会に来んね?

「昔の乙女も今ではフトメ」「かつこ良かったマッチョも白髪の出っ腹」。そいでん、同じ空気が吸えば、十八の時に戻れるたい。この「異次元空間」ば楽しんでくれんね。

さて、この原稿も五回目となりますが、会長としては、最後になりました。

今回の同窓会をもって、会長職を後輩に譲ることとなりました。五年間務めさせていただきましたが、職務をまっとうできまして下さい。

私事ですが、去年の六月に「還暦」ば迎えて、この三月に定年になって、今は落語の「横丁のご隠居」生活ば送っております。そいでん、「長崎に恩返しせんば…」って思うて、五月から、ボランティアで東

京で実施する「長崎伝習所・長崎検定塾」の塾長ば務めとります。

はつきり言うて、ただの「のぼせもん」ですけん、おだてられて木に登つてしようたです。

今秋には、誰でもが参加のできるオープンセミナーば開きますけん、長崎の歴史、文化に興味ある人、来年「長崎検定」ば受

◇つながつていたい大事な場所

11回生 江勝 広

「ふるさとは遠きにありて思うもの」とうたつたのは明治生まれ金沢出身の詩人、室生犀星です。もし彼が現代に生きていたら故郷を一体どのように表現するのでしょうか? 現在、私はFace Bookを愛用していますが、はば毎日のように長崎の情報が伝わります。インターネット全盛時代に「ふるさとは遠きにありて思うもの」と違うコンテキストで故郷を再発見できないかというのが本文の主旨です。

さて私は長崎で生まれ、18歳の時に上京しました。長崎駅で両親に見送ってもらい上京した際のことを今でも鮮明に覚えています。初めての大会で心細い気持ちと新生活への期待が入り混じった複雑な気持ちでした。若い頃は寝台特急さくら号に乗りながら仕事に忙しくなるに伴い、だんだんと足が遠のき長年にわたり、それこそ「ふるさとは遠きにありて思うもの」でした。

私の気持ちに変化があったのは、次男と婚約者が長崎の祖父母に挨拶に行った時でした。若い二人が祖母より江家のルーツを

けようと思うとる人は、一度覗いて見て下さい。ちよつと違うた長崎の顔が見らるるっかもしれない。

では、七月十一日(土)、銀座で待つとるけんね。「でんでらりゅう」しよる同期の友達ば誘うて来てね。長崎弁の達人もいっばいおるよ。

〈了〉

聞いて長崎がいたく気に入り、自分たちにとって大事な土地だと言いつた時には、本当にびっくりしました。この体験は私自身にとっても家族のルーツとその故郷というのを改めて考え直すきっかけになりました。故郷とは大げさに言えば日本人の心のささえになつてゐるのかもしれない。

現在も101歳の父と姉が長崎に住んでいます。また多数の友人が住む土地でもあります。同窓生やFace Bookを通じて知り合つた友達が、流してくれる地元情報は私にとって本当に貴重なものです。そんな私にとって長崎はあらゆる手段を通じて、何時でもつながつていたい大事な場所です。つながろうという意思があれば可能ということ、私は「ふるさとは遠くにあれど、つながるもの」と思う次第です。皆さんも長崎南の関東同窓会の総会や各種イベントに参加され、積極的に長崎につながつて、故郷を再発見してみても如何でしょうか? きつと楽しいことがあると思いますよ。

第二十四回長崎南関東同窓会幹事学年

今年五十歳なる我々二十一回生。久しぶりに出会った昔の仲間、皆頼りがいのある素敵な大人になっていました。準備のために何度も集まるうちに、三十年の月日をあつという間に飛び越え、昔のままの笑顔で、大変だったけど楽しめました。三十年ぶりに復活した仲間との絆をこれからも大切にしていきます。



二十一回生 入江直彦

「B G V作ってみました」

幹事回生として、イベントを考えていたところ、歓談の際に来会者の方が手持ち無沙汰にならないようにと思いたち、バックグラウンドビデオ(B G V)を作成することにしました。「過去と未来をつなぐ」という同窓会テーマに沿い、過去から直近の南高の風景をビデオ化する

ことに。
手順としては、色んな年代の卒業アルバムを入手し、デジカメでキャプチャし、パソコン上でビデオに編集し、音楽とキャプションを付けて終わり、という流れ。卒業アルバムは中島さんと親戚の協力で、昭和四十四年から平成二十一年までのアルバムを入手できました。全く異なる世代の卒業アルバムをじっくりと見て、過去から今まで変わらず受け継がれていくものと、時代と共に新たに変わっていくものを感じることができました。これだけでも今回の幹事を引き受けた甲斐がありました。

B G V作成に当たっては、写真をキャプチャする際の照明や、初めて使うビデオ作成ツール(マイクロソフトビデオメーカー)の機能把握に苦労はしましたが、中でも時間が掛かったのが音楽の選択でした。音楽的ボキャブラリーに乏しい私としては、それぞれの世代の「空気」に合わせた曲を選択するのに一苦労。検索サイトを紐解き、ユーチューブで試聴



し、実際に写真と合わせてみて、という作業を何度となく繰り返ししました。出来たビデオは、クラウドにアップし、他の幹事の皆さんからのフィードバックを反映し、最終版をDVDに焼いて無事完成。

同窓会当日は、DVDデッキが借りられなかったり、オープニング際の音量が足りなかったり、と色々ありました。が、幹事の皆さんやOBからの反響もいただき、作成して満足しています。ただ、同窓会で「手持ち無沙汰」にならないようにというのは杞憂でしたね。次回以降も、関東同窓会が盛会になることを期待しています。



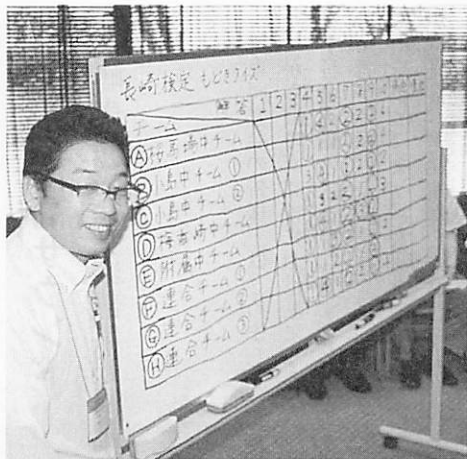
二十一回生 吉岡正泰

昨年の関東同窓会と故郷に思いを馳せて三十年ぶりの再会を果たした同級生や、三十年来の友人が集まって昨年の関東同窓会の企画運営をさせて頂きました。昨年を振り返って、会の準備の思い出や、遠い故郷の友人と家族へ思いを馳せてみました。

「長崎と友人とつながっていること」不思議なもので、高校時代には話した事はもちろん、会ったかどうか定かではない人達がよくも集まりました。三十年前から再会することは決まっていたのかもしれない。人生でたった三年間同じ場所にいただけなのに、東京でも長崎でもつながっているんです。

「いつもと違う企画をやってみよう」二一世紀に羽ばたく二十一回生と言われていた私たちは結構盛り上がりつつありました。その中のひとつが「長崎検定もどきクイズ」でした。結局二〇世紀っぽいですが、クイズのネタ探しを、雲仙にいる同級生が手伝ってくれたり、長崎最大の規模を誇っていた浜の町アーケ





ードの有名書店に文献を探しに行ってみたり。すでに思い出巡りが始まっていた。クイズといえば豪華景品が付く物だと思い立ち、故郷の匂い漂う品物探しを始めた。伺ってみると長崎の有名物産には南校卒業生が多くかわつていらつしやるのがわかりました。「なんやそげんことも知らんとや」と言われましても高校卒業後長崎を巣立った身としては勉強不足でして。そこで長崎でご活躍されている卒業生の皆さんを関東同窓会でご紹介しようと思い、長崎で顔が広い？後輩の浅田眞澄美さんに聞いてみると「そんなに！」というくらいたくさんいらつしやうて困りました。そう、今度は二十一回生が幹事だ！と思ひ立ち、故郷の二十一回生の友人のひとりに相談するために長崎を訪れました。高校一年の文化祭では一緒に映画をつくり、東京での浪人時代には、彼の下宿に居候して一緒に銭湯に通った、

今ではすっかり有名人の陳優継さん。彼は二つ返事で快く協力してくれました。当日の司会には私の指名で予備校も同窓生のコンビで盛り上がり、この原稿は高校・大学、そして会社まで一緒に編集長が編集してくれて・・・あれから三〇年、まさかこんなに多くの同級生や後輩と、それも東京で、おまけに高校時代だけではない人生の一場面を思い返しながら再び出会えるなんて。驚きと感動の長崎南校関東同窓会がますます盛り上がりますように。

二十一回生 横井慎一

幹事回生代表を務めさせていただきました。昨年7月が遠い昔のように感じますが、協力してくれた仲間、先輩方、梶原ひろみさんに感謝です。このときの想いは、同窓会ホームページ「フロムサウス」に掲載いただいたので、ここでは大好きな長崎を想い起します。

「造船所の父とべつ甲職人の娘の母」

私の両親は長崎らしい職業でした。父が勤務していた林兼造船所は、私が小島中学校の頃不況となり縮小となり、本社のある下関へ移るか辞めるかとなりました。子供ながらに不安でした。転校、お年玉を配るお金が無い、内職、母方筋の観光店舗に共働きも。でも長崎に残れました。父は母方の観光店舗でカステラ焼き職人になりました。今思えばそこまです仕事を換えられるものかと驚きます。おかげさまで週末の親戚や友人との深

夜、朝方までの麻雀や、余程の嵐で無い限り、漁船を出した魚釣りと、仕事は真剣に、好きな趣味もとことん楽しむ姿を父は見せてくれました。今年十七回忌になります。

母方の祖父はビルマに出征し帰還した「べつ甲職人」でした。今では貴重な工芸品です。娘の母はべつ甲の目利きができる販売員になり、当時紹介された新聞記事や職人本、工芸作品が貴重な遺品です。父にしろ祖父にしろ、存命なら聞いて、伝承したいことばかりです。

こんな不安定な生活だったこともあり、「あんたは公務員にならなさい」と良く言われました。それでも造船マンやべつ甲職人にはなりません。だから残念ながら長崎には住めません。でも五十才も間近になり長崎への帰省サイクルが格段にアップしました。幸い息子達、茨城出身の家内も長崎が大好きです。ありがとうございます。

長崎に残した母も七十歳を超え、車の横づけができない英彦山の中腹、坂道生活に区切りを付け、4月からは銅座の街中に引っ越しました。浜の町のど真ん中なら、高齢の友人や、親戚も訪問してくれて、楽しく元気に過ごしてくれるはずです。長崎に別荘もできたら、また帰りたいかね。

6月は父の法事で帰省しますが、長崎の同級生と、大同窓会を来年度に実現できよう企画打合せします。また懐かしき人と会えることが楽しみタイ。



長崎南21回生

非公開プロフィールメンバー57人

参加済み

メンバーを追加

シェア

その他



響け 南高サウンド

長崎南高校吹奏楽部第10回記念定期演奏会お礼に代えて

長崎南高 教諭 辻 理香

関東同窓会の皆様、はじめまして。昨年4月から長崎南高校にお世話になっております音楽担当の辻と申します。私のような若輩者が今回、このような場面で執筆させて頂くことになり、大変恐縮しておりますが、直接、定期演奏会のお礼をお伝えできる機会とお引き受けしました。

去る3月15日(日)に、長崎市民会館文化ホールにおきまして、第10回記念定期演奏会を、盛会のうちに終えることができました。これもひとえに関東同窓会の皆様をはじめ、多くの同窓生の皆様のおかげです。歴史と伝統ある長崎南高に着任してから、多くの方から寄せられる期待や世間の

注目度の高さによる重責に何度も押しつぶされそうになりながらも、校長先生、教頭先生をはじめとして多くの先生方に支えて頂きながら、音楽に対して真剣に向き合う部員たちと共に充実した日々を送ることが出来ています。演奏会運営のために部員たちが広告協賛金のお願いに伺った際には、

多くの卒業生の方に励ましの言葉をかけて頂き、快く協力をして頂きました。演奏会当日には、関東同窓会から前田様、福岡同窓会から松本様をはじめ、多くの同窓生の方々に遠方より足を運んで頂きました。おかげさまで当日は、準備していたプログラムが足りなくなってしまうほど多くのお客様



様においていただきました。部員一同、感激のステージを経験することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

今年度も早速、唐八景にて行われたハタ揚げ大会や松が枝埠頭での大型客船の出港セレモニーなどで、地域の方々にも南高サウンドをお届けしています。

前回の定期演奏会の成功を励みにして、これからも「気魄」と「情熱」あふれる南高サウンドを多くの方々に届けられるように精進して参ります。

今後とも応援よろしくお願い致します。

元気な後期高齢者を 目指そう

2回生 大渡 武人

我々2回生は、今年卒業後50年となり、同期の太宗は、年金生活者であります。しかし、日本人の長寿化に伴い高齢者が多くなりましたが、健康的な生活を維持していくことの大切さを痛感している最近です。スローライフを楽しむ方法の一つとして、私は、地元の地方自治体等が運営している「生涯学習施設」の活用をお勧めします。

私は、60歳以上を対象とした「ふなばし市民大学校」という生涯学習施設で、1年間にわたり週1回(1回2時間)の文学・歴史・健康等の講義を受けました。生涯学習施設では、単に教養を高めるという目的だけでなく、地域での交友の輪を広げる友達作りを図り、その相互の親睦を深めるということを重視しています。ここで知り合った仲間はお互いにどのような仕事をしていたとか、どのようなポストを務めてきたとか一切関知することもなく、年齢層も

幅がありますが、同期生としての連帯感と申しますか、仲間意識が生じてきました。

多くの男性諸氏は、仕事人間で生きてきたことから、地元での交流が少ないのではありませんか? お互いに異なる世界で過ごしてきた新たな仲間との交遊は、楽しいものです。ただ、何故か受講者数は、女性の方が多く、新たな仲間としてのお付き合いに若干戸惑いを感じました。1年間の課程終了後もクラス同窓会の仲間として、年数回の懇親会、歩こう会、健康麻雀、早朝ボーリング等を楽しんでおります。また、その後、生涯学習施設での経験を生かして先輩たちが次の受け皿として立ち上げた別の生涯学習機関「船橋マスター学院」にも進みましたが、やはり、その仲間達とも同様な活動が続いております。同窓会で立ち上げた俳句の会、囲碁サークル等多くのサークル活動を活用されている方も大勢おられます。このような生涯学習施設は数多くあり、また、生涯学習以外にも、地方自治体では、健康維持を目的とした活動も廉価で提供されております。

このような情報は、各地方自治体で発行されております広報紙に多く掲載されており、その情報を活用するために、普段より幅広くアンテナを広げておくことが大事かと思えます。地域の仲間たちとの交流で健康的な生活を送り、元気な後期高齢者になるうではありませんか。

長崎雑感♪

13回生 道脇 信之

♪ オイが生まれた 長崎ん言葉は
オイはどんくらい 覚えとるやろか

生活も変わり、心も変わってく、どげんしたらよいかと解らんばいでも誰(ダイ)より誰(ダイ)よりも知っとつと

東京にまみれて 人と話して 少しずつ変わってゆく オイの言葉を(もってこい もってこい)

会社では話せない 家の中でん話せんばってん

大事かもんはきつと 残つとるはずた

い そいが長崎もんの宝〜♪

この詞は、BEGINの『島人ぬ宝』の替え歌(長崎バージョン)の第2フレーズとして、私が編詩し、時々カラオケで歌っているものです。

(歌詞にご興味のある方は同窓会誌編集局までご一報下さい。)

昭和51年3月に長崎南高校を卒業以来、大学生、社会人(長崎勤務の8年8ヶ月を除く)を通して、30年以上を長崎の外で暮らしたことになりますが、会社の出張や女房の実家もあることから、時々長崎に帰っており、皆様より長崎の状況は良く知っているといます。

東京丸の内で過ごした新入社員時、上司・先輩、特に若い女性と話をする際は、話の内容を理解してもらうように無理に標準語(東京弁)を話し、気を遣ったのを覚えています。

今でも初対面の方にはそうしています、その方が九州、それも長崎出身、更に長崎南高校卒業とくれば嬉しくなつて、初対面にも拘わらずとたんに長崎弁で話をしています。

それが、長崎もんのDNA、気質(かた

ぎ)、呪縛?...と理解しています。

女房はさておき、3人の娘たちは東京暮らしが長いので長崎弁は上手く話せませんが、少なくとも私が話す長崎弁は時々聞き返すものの、理解はしているようです。そう信じています。

娘たちの通勤、通学を考慮し、東京に小さな居を構えました。女房はついてこないだろうなと思いつつも、いずれは長崎に戻りたいなと心密かに思っています。

南校卒業生の旦那に なつて

金田 秀文

南校卒業14年生、旧姓高田洋子の旦那をやつてます。金田と申します。

出会いは、長崎大学でのサークル活動で同じサイクリングクラブ、私は一年浪人していますので、彼女が2年生の先輩、私が何も知らない1年生。

あれは忘れもしない夏合宿...という話は置いて、南校卒業生ってどうですか?と聞かれて、まず思い浮かぶのは、彼女と共に彼女の同回生で、NMさんとSHさんです。

性格などは勿論皆さん違いますが、同じカラー(におい?)を感じます。

行動年齢が若い、芯が強い、実践派、単純にして深いところでしょうか。多分に九州の人間という共通点はあるものの、皆さんとても前向きで、あまりよくよせず「まっ、どうにかなるだろう」という良い意味での開き直りが、出来るんです。凄いなあ、羨ましいと思う反面、少し大雑把な(鷹揚と言うべきか?)ところも

併せ持っていて、すばらしいバランス感覚なんだと思います。(血液型ならOかBばかりか?)と思える時もある位です。)

こう言う私も南校の盛大な同窓会の流れで発足したらしい登山部に誘って頂き、妻と一緒に何度も楽しいトレッキングを経験させて頂いています。(宮崎隊長他登山部の皆さん本当に有難うございます!)登山部の皆さんもやはり同じ空気があり、兎に角楽しむ事には貪欲で、実践第一!食事などとても山とは思えない豪華なメニューで、少し気恥ずかしいのですが、鼻高々だったりします。

妻も含み皆さんの一体感や物怖じしない行動力などは、南校卒業生スピリットではないでしょうか。一緒にいるとワクワク感とまったりとした安心感に包まれます。私が存じ上げる方々より遥かに多くの卒業生の皆さんがいらっしゃると思います、同じ空気をまとっているかと確信します。

居酒屋の同窓会ノート に思う

24回生 大久保将

長崎南OBの皆さん、お久しぶりです。

24回生の大久保です。

皆さんはJR新橋駅前にある居酒屋「有薫酒蔵」はご存知でしょうか。ここは、全国の高校の同窓会ノ

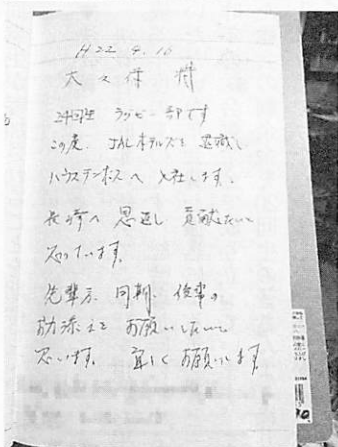
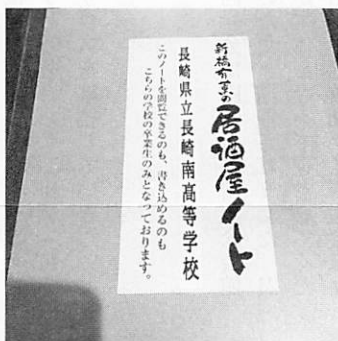
ートがあることで有名です。当然、長崎南のノートもあります。

5年前の4月16日、私はそのノートに「長崎へ恩返し、貢献したい」と書いて、高校まで過ごした長崎へ戻り、HIS傘下となるタイミングでハウステンボスへ転職しました。4年半の再建事業は決して楽ではありませんでしたが、皆様方のご支援を賜り、昨年、佐世保市からの事業再生支援交付金を返上し、一企業として一人立ちすることとなり、無事に再建が完了しました。東京のみならず、大阪、福岡など全国の南OBの方々に世話になりました。この場を借りて、皆様に御礼申し上げます。本当に有り難うございました。

再建の初年度は広告宣伝費も余りなく、生まれ故郷長崎で、まさか自分が浜の町アーケードでチラシ配りや各地の団地でポスティングをするとは、夢にも思いませんでした。長崎、佐賀、福岡各駅の駅長さんを訪問しポスター掲示を依頼したり、週末はいろんなイベントに出没し、着ぐるみでPR活動したり...

そしてつい先日、5年後の2015年4月16日、何かに導かれるように偶然その居酒屋に行き、そのノートを開きました。

現在、ご縁を頂き、豊洲のキツザニア東京にて勤務しております。



キッザニアは子どもの街です。この素晴らしいところは、「楽しみながら仕事体験をすること、子どもの「生きる力」を醸成する」ことを理念にしており、子ども達に働くことの楽しさを教えています。舞浜のネズミの国で、夢ばかり見ているだけでは人間は生きていきません。英語のプログラムも充実しているので、オリンピックの好影響も受けられるかもしれません。

今後は、キッザニアが子ども達に与える教育的貢献度を高め、社会貢献もしていきたいと思っています。キッザニアで楽しめる年齢は3歳から15歳です。諸先輩方はお孫さんを、同期、後輩たちは子どもを連れて来ててください。お待ちしております！

はたあげ

2015年4月29日、毎年恒例の長崎はた揚げ大会が、多摩川六郷土手で開催されました。関東同窓会のメンバーだけで約60名に参加してもらいました。友人、子どもさん、お孫さん、その他含めると100名近くになったのだと思います。

ほどよい天気恵まれて和気藹々、楽しい一日を過ごす事ができました。今年は一銭ハタ？が多くあがっていたようです。それだけ子どもさんの参加が多かったのかも知れません。

ちゃんぽんも皿うどんも大村寿司も食べる事ができました。アナウンスは南高校の担当で皆さんのご協力が無事に終わる事ができました。ありがとうございました。



事務局だより

関東同窓会の会報が、今回で第30号を迎える事になりました。ホームページに第一号から第五号まで、山田先生コレクションの欄に掲載しています。発行当初の苦労が伝わってきます。それから第30号、目まぐるしい世の中の変化で、メール、ブログ、SNSと伝達方法が増えてしまいました。

そんな中で情報関連に弱い人、津々浦々の人にも伝えようとの思いで、これからの紙によるフロムサウスを継続していきたいと思っています。

▼総会

昨年の第24回総会は田町の笹川記念会館を利用させていただき開催されました。21回生の皆さんが主体となって運営してくださいました。出身中学校別クイズ大会ほかで楽しい同窓会になりました。今回の会報の4～5ページも21回生有志により、記事もレイアウトも制作していただいたものです。ありがとうございました。

今年は第25回目を迎えます。諸事情により、12回生が主体となって準備を進めてもらっています。会場は銀座のド真ん中を予定しています。楽しい同窓会の企画を検討されているようです。また交通の便も良い所ですので、皆さん声をかけあつて多くの

同窓生が参加されることを期待しています。

▼決算

決算書は昨年の総会でご承認を頂いた平成25年度のもので、総会参加時に納めていただいた年会費と振込による年会費と一昨年の総会剰余金で成り立っています。また総会の剰余金を20回生の皆さんより繰り入れをしていただきました。ありがとうございました。これからも、ぜひ会費納入のご協力を宜しくお願い致します。

▼あとがき

在京の長崎関連の団体に、長崎県人会、長崎県人会、長崎市人會（ビードロ会）があります。それぞれに程よい距離で連携を取らせていただいています。どの会にしても参加者がだんだん少なくなっているようです。いろいろな変化も原因なのでしょうけど継続していきたいと思っています。また長崎市東京事務所があります。年に何度か物産展を行っていて、もう二度ほど関東同窓会としてお手伝いしました。可能な限りは続けたいと思います。加えて小岩会長が長崎伝習所のひとつの塾の塾長を務めることになりました。ぜひ塾生に応募していただきたいと思います。

平成25年度決算		平成26年3月31日	
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越	636,011	会報印刷代	133,187
会費	502,760	会報発送料	143,440
広告収入	0	運送費	950
預金利息	0	編集情報費	0
雑収入	0	イベント開催費	87,278
		他地区参加費	66,300
第23回総会	75,895	総会補助費	0
		会議費	16,200
		事務費	0
		通信費	25,920
		旅費交通費	64,800
		ホームページ維持費	38,880
		振込手数料等	630
		予備費	0
		翌年度繰越	636,011
	1,214,666		1,214,666

フロムサウス 通巻三〇号

二〇一五年五月三十一日発行

編集／発行人 長崎南高校関東同窓会

発行所 長崎南高校同窓会 小岩寿樹

〒183-00056

東京都府中市寿町2-3-11-701

前田幸司方

URL <http://members3.jcom.home.ne.jp/fromsouth/index.html>